

1. 受 理 番 号 請願第5号

2. 受 理 年 月 日 令和6年8月28日

3. 請 願 の 件 名

現行保険証とマイナ保険証の併用を続けるよう求める意見書を提出することを求める請願

4. 紹 介 議 員

杉浦 智子、林 まり、柏木 敬友子、小島 義雄、中川 哲也

5. 付 託 委 員 会 教育厚生常任委員会

6. 請 願 趣 旨 別紙のとおり

【別 紙】

[請願趣旨]

本年 12 月 2 日には健康保険証を廃止して、マイナンバーカードに保険証機能を持たせるマイナ保険証に一本化されることになりました。

現行の健康保険被保険者証の廃止は、マイナンバー法上任意とされているマイナンバーカードの取得の事実上の義務化であり、法律上も大きな問題があります。

現行の健康保険証のみだと診療を後回しにされたり、薬を出せないと告げられたりと、医療機関や薬局で、保険診療を壊してしまう考えられないトラブルが引き起こされています。また、カード読み取り端末が必要なマイナ保険証は、災害による停電時には保険情報が確認できず、かえって混乱を招くことが、能登半島地震でも明らかになりました。そのため、全国の少なからぬ医療機関が、トラブルを避けるため、患者に対しマイナ保険証を持っている人であっても、念のため通常の保険証を持参するよう促しているのが現実なのです。このような状況では、マイナ保険証を使用することについて不安を抱く人がいることは当然です。そのため、マイナ保険証の使用率は本年 6 月末時点で 1 割にも満たない現状です。

また、マイナンバーカードの利活用に対応しきれない医療機関も一定数あり、閉院という選択肢を取らざるを得ない、という現状が生まれています。

わが国の医療保険制度は、いつでもどこでも誰でも、必要な時に日本国内で均しく医療を受けられる「国民皆保険」制度を採っているが、上記のような状況では同制度は、機能不全に陥りかねません。また、地域の医療を支える担い手が不足した場合、地域住民の健康をまもる態勢が大きく損なわれる可能性が懸念されます。

よって、大津市議会として、下記請願項目について採択するよう請願いたします。

[請願項目]

わが国が世界に誇る医療保険制度を将来にわたって維持存続させるため、本年 12 月 2 日実施予定の「現行の健康保険証の廃止・マイナ保険証への一本化」という方針を撤回し、現状通り、「現行保険証とマイナ保険証の併用」を続けるよう求める意見書を提出すること。